

狭山市教育委員会
教育長 向野康雄 様

狭山市立中央中学校
校長 中村洋一郎 印

令和2年度 狭山市立中央中学校 自己評価書

1 本年度の重点目標

(1)わかる授業の創造と体力の向上 (2)豊かな心の育成 (3)美しく安全な学校づくり
(4)地域・保護者との信頼関係の構築、強化 (5)小・中一貫教育

2 本年度の経営方針

信頼と協働を通し、日々の努力を積み重ね、生徒の思いや願いを実現する。

3 自己評価結果

【評価の目安】A:よくできている(90%) B:概ねできている(85%以上) C:あまりできていない(70%以上) D:できていない(70%未満)

領域	番号	評価の観点	達成状況	改善の方策
1 学校教育 目標	1	共通理解が図られ、実現の努力がなされたか。	A	教職員、保護者共に学校評価において90%以上の高い評価結果となっている。学校の広報活動を充実させた結果、昨年度比0.2%増となった。
	2	保護者への浸透が図られたか。	A	
	3	経営方針について共通理解が図られ実現の努力が図られたか。	A	
2 校務 分掌	4	分掌の内容や責任が明確であったか。	A	職員の仕事量の均等化の面では課題が残るが、それぞれが与えられた役割に真摯に取り組んでいた。
	5	分掌が活発に機能し各分掌の連携が図られたか。	B	
	6	各分掌の組織が合理的に編成されているか。	A	
3 教育 計画	7	学校教育目標や経営方針を具体化するために編制されたか。	A	一斉休校期間もあり、当初の教育計画の変更を余儀なくされたが、授業時数確保を最優先課題に生徒の学習保障に最大限の努力を払った。学校での教育活動を公開する場面は限られたが、HPの充実、各種便りの発行等広報活動に尽力した。
	8	年間授業日数が適切に配当されていたか。	A	
	9	授業日数の確保の努力が十分なされたか。	A	
	10	開かれた学校づくりに努力がなされたか。	B	
	11	教員が教育計画実施の担い手であるという自覚を持てたか。	A	
4 学年 学級 経営	12	時間割により十分な成果を得ることができたか	A	学年・学級経営案に合わせた学級経営を促した。若手を中心に学年・学級経営の改善を図り、UD化を意識した教室環境を維持し、明るく清潔で安全な教室づくりができた。毎学期末に学級経営案の進捗状況を全教員で確認し、次学期の改善へとつなげた。
	13	学校・学年・学級経営の方針に一貫性があったか。	A	
	14	意図的、計画的に学年、学級経営が進められたか。	A	
	15	児童生徒の自己決定の場が多く設定されたか。	B	
	16	教室環境の整備に努力がなされたか。	A	
	17	朝の会、給食、清掃、帰りの会などに工夫改善が加えられたか。	A	
5 学習 指導	18	朝の読書への取り組みがしっかりなされたか。	A	授業力向上のために授業力向上自己診断シートを活用し、定期的に自分の授業を振り返ることができた。生徒アンケートの結果からも、高い肯定的評価を得ることができた。来年度からのタブレット導入に際し、教員のICT機器の活用能力については課題が残る。
	19	児童生徒が進んで学ぶ授業の改善がなされたか。	A	
	20	基礎的・基本的内容を身につけさせるような工夫改善がなされたか。	A	
	21	児童生徒の長所を伸ばす評価の工夫がなされたか。	A	
	22	視聴覚・情報機器の積極的、効果的な活用がなされたか。	B	
6 道徳 教育	25	全体計画を理解し、全教育活動をとらして道徳教育の実践がなされたか。	A	全校体制でのローテーション道徳を実施し、全職員で生徒の道徳的実践意欲と態度の育成に取り組んだ。
	26	道徳の時間が生徒の実態把握に基づき、計画的に実践されたか。	A	
8 特別 活動	27	全体計画を理解し、生徒の自己決定の場が多く設定されたか。	A	委員会活動を活発化し自治的な活動が行われている。コロナ禍の中、ビデオ撮影による生徒総会、3年生を送る会等の取り組みを行い、生徒が充実感を味わう機会を確保した。奉仕的な活動の充実が課題である。
	28	全体計画が、生徒の実態把握に基づき、計画的に実施されたか。	A	
	29	生徒会活動などの特性が理解され、生徒の自己実現がなされたか。	A	
	30	奉仕活動の活発化が図られたか。	B	
9 学校 行事	31	学校行事が計画的に実施されたか。	A	職員の英知を結集し、コロナ禍に応じた旅行的行事、体育祭、音楽会等を実施し、生徒、保護者から高い評価を得ることができた。
	32	学校行事の特性を生かし、生徒の自己実現が図られたか。	A	
	33	職員の仕事分担が適切であり、お互いに協力がなされたか。	B	

領域	番号	評価の観点	達成状況	改善の方策
10 生徒指導	34	全体計画に基づき、計画的な指導がなされたか。	A	週1回の生徒指導部会及び教育相談部会で情報共有が行われ、計画的に共通理解をもって生徒指導及び教育相談の充実が図られた。いじめ・不登校への対応も組織的に行われたが不登校の生徒の改善にはさらに努力が必要である。清掃活動については無言清掃を全学年で実施した。今後も指導を継続し、中央中の伝統となる活動にしたい。生徒主体によるいじめに対する取り組みを充実させたい。
	35	職員に共通理解があったか。	A	
	36	カウンセリングマインドを心がけて指導がなされたか。	B	
	37	教育相談活動が計画的に実施されたか。	A	
	38	基本的な生活習慣が定着するよう指導がなされたか。	A	
	39	生徒が意欲的に清掃活動を行うよう指導がなされたか。	B	
	40	いじめや不登校の指導が積極的になされたか。	B	
	41	不登校生徒が出ないよう努力がなされたか。	A	
	42	家庭、地域、諸機関との連携が密に行われたか。	A	
11 進路指導	43	全体計画に基づき、計画的な指導が行われたか。	A	1学年の職場体験学習は中止となったが、ハローワーク中央、2年生高校模擬授業体験、3年進路学習会は充実した活動となった。
	44	生徒が自己の生き方について考えることのできる授業や指導がなされたか。	A	
	45	家庭との連携が行われたか。	A	
12 保健・安全指導	46	保健観察が丁寧に行われたか。	A	「コロナウイルスを校内に持ち込まない」を合言葉に毎朝の健康観察、不備家庭への確認連絡を怠ることなく行った。学校再開時初授業で、全クラス新型コロナウイルスに関する学級活動を実施し、生徒に正しく理解させた。 体育の授業、部活動では大きな制約を受けたが、生徒の意欲を損なわないよう工夫した指導を行った。交通安全に対する意識は継続して向上させねばならない。
	47	児童生徒の危険な行動【予測されるものを含めて】に対して適切な指導がなされたか。	B	
	48	健康や体力向上に進んで取り組む指導がなされたか。	B	
	49	治療が必要な生徒に適切に治療勧告がなされたか。	A	
	50	事故に対する対応が適切になされたか。	A	
	51	性に関する指導が共通理解のもとに行われたか。	A	
	52	給食指導が適切になされたか。	A	
13 職員会議	53	開始時刻が守られたか。	A	企画委員会での事前の練り上げ、会議資料の事前配布が功を奏し、無駄なく効率よくスムーズに運営できた。時間の確保が難しいが、勤務時間内で終了することができた。
	54	職員が問題意識を持って臨めたか。	A	
	55	議案の内容や提案の仕方が適切であったか。	B	
	56	建設的な意見が述べられ、よりよい会議の進行に協力的であったか。	A	
	57	会議の内容がよく理解され、決定されたことが責任持って実行できたか。	A	
	58	自己評価シートの内容が適切に進められたか。	A	
14 教職員の服務	59	教育公務員としての自覚を持ち公務員倫理のもと服務の厳正に努めたか。	A	倫理確立委員会便りの発行、定期的な教職員事故防止研修を実施し、服務の適正化、校務の基本について指導を徹底した。コロナ禍の休校期間や部活動中止期間により、職員が自分の勤務状況を振り返ることで働き方改革が進んでいる。 職員室の環境整備、施錠の徹底を今後も継続していく。
	60	ゆとりを持った出勤がなされたか。	A	
	61	服装、言葉遣い、挨拶等は適切であったか。	A	
	62	出張や研修の報告が速やかに行われたか。	A	
	63	組織の一員としての自覚に基づき一人一人の責任が果たせたか。	A	
	64	健康維持増進のための努力がなされたか。	B	
15 校内研修	65	研究主題が生徒・地域の実態や課題を踏まえた適切なものであったか。	A	今年度より導入されたキャリアパスポートについて、指導者を招聘しての研修会により、理解を深めることができた。来年度に延期となったキャリア教育実践発表に向けて、さらに研修を深めていく。新学習指導要領実施に関する評価についての研修会も今年度中に実施する予定である。
	66	研究組織や進め方は研究内容に応じて合理的・機能的であったか。	B	
	67	教職員が意欲的に取り組んでいたか。	A	
	68	研究の結果、生徒の変容が見られ、子供のためになったか。	A	
	69	研究内容が日々の指導の中に生かされ、教員にもしっかり身についたか。	A	
	70	研究の成果を次年度に生かす見通しができたか。	A	
16 施設設備	71	施設設備が丁寧に正しく利用できたか。	A	限られた予算の中、優先順位をつけて改修がなされ計画的に実施できた。教職員のDIYにより環境整備が進んだ。課題であった雨漏り防止対策工事を実施し、安全、快適な生活環境整備を進めることができた。また、コロナ対策費を活用し、教室への加湿器、サーキュレーター設置を行い、学習環境を高めることができた。
	72	備品の所在数量使用方法などが明確に把握され、有効に利用されたか。	A	
	73	使用後は施錠等が確実になされ、しっかり後始末ができたか。	A	
	74	掲示施設が有効に活用され、掲示教育が積極的になされたか。	A	
	75	環境整備に生徒も積極的に参加し、積極的な活動がなされたか。	B	
17 学校事務	76	出勤簿は毎朝、押印されたか。	B	提出物は遺漏なく期限よりも早く提出することができている。来年度の出席簿電子化に向けて、生徒の出席状況を「見える化」する方策が必要である。会計処理については複数での確認など、事故防止対策を徹底することができた。
	77	旅行命令簿はその都度、適切に記入されたか。	A	
	78	出席簿は毎日記入され、月ごとの集計は滞りなく行われたか。	A	
	79	文書は事前に校長に提出し、点検を受け、期限までに発送されたか。	A	
18 PTA 家庭地域	80	現金の取り扱いには細心の注意が払われ、会計事務は適切に処理されたか。	A	保護者、地域との交流の場は限られてしまったが、学校だよりの発行、HPの充実により広報活動に力を入れ、保護者からも高評価を得られた。
	81	家庭訪問・保護者会等は適切に計画され遂行されたか。	A	
	82	学年・学級便り等の発行は適切になされ、保護者への情報提供は適切であったか。	A	
	83	地域や家庭を積極的に理解するよう努力されたか。	A	
19 部活動	84	積極的にPTAや地域の活動へ積極的に参加したか。	B	ガイドラインに沿った充実した活動の結果、新人体育大会では多くの部が県大会出場を果たした。
	85	部活動の指導は計画的に適切に行われたか。	A	
20 総合	86	内容は生徒の興味をそそるものであったか。	A	計画に従って効果的に実施することができた。来年度の計画見直しも進めている。
	87	計画に沿って実施できたか。	A	
	88	図書室・コンピュータ室等の利用は計画的に適切に行われたか。	B	